日刊 油業報知

HELLO
水素 → Hydrogen
電気 → Electricity
液化石油ガス → LPG
カーライフ → CarLife
石油 → Oil

エネルギー業界の“今”と“未来”を応援します

HELLO

1/30（mon.）

発行所
株式会社
油業報知新聞社
〒104-0033
東京都中央区新川2丁目6番8号
電話 03-3551-9201（代）
郵便振替口座　00160-5-74241
支局／東北・関東・東海・近畿・中国・九州

WEBサイトアドレス
http://yugyouhouchi.co.jp

特約店と未来を切り開く

丸紅エネルギー

「全国特約店懇親会」開く

丸紅エネルギーは23日、丸紅とともに全国特約店懇親会を丸紅本社スカイレセプション（東京都千代田区）で開催し全国から多数特約店が出席した。丸エネの本郷孝博社長は、石油業界が先行き不透明で難しい事業環境に立ち向かうなかで、商社ならではの総合力を生かした提案をし「特約店の皆さまと一緒に未来を切り開いていきたい」とあいさつした。

本郷社長は、世界がDX（デジタルトランスフォーメーション）とカーボンニュートラル（CN）に向けた転換期にあるなかで、石油は当面、社会に不可欠なライフラインとして機能し続けると強調。「石油製品の安定供給という社会的使命を特約店の皆さまとともに引き続き尽力していく」と約束した。

CNに向けた取り組みは、水素や合成燃料といった次世代燃料が普及することを想定しながら、社会実装までの時間軸を踏まえ、丸紅やさまざまなパートナーとともに協議し、推進すると述べた。

来賓として出席した九州丸紅エネルギー会の満尾精作会長（木野興産代表）はあいさつで、私たち石油販売業者はコロナ禍で経済の低迷による販売不振、資金繰り、スタッフの感染などによる人手不足に悩まされてきたことに加えて、昨年のロシアのウクライナ侵攻に伴う不安定化で原油価格が暴騰。CNの問題も未だに指針が見えないなかで、情報収集能力などに優れた丸エネが次世代への指針を示すことに期待した。

丸紅の横田善明常務執行役員は、今年は十干十二支で癸卯にあたり、今までの努力が実を結び、さらに成長し飛躍する年と言われていると紹介。丸エネを通して「特約店の皆さまとさらに連携を深め、皆さまからの信頼に応え、一緒にさらなる成長・飛躍する年としていきたい」と抱負を述べた。

乾杯のあいさつは丸紅の内田浩一執行役員エネルギー本部長が、中締めは丸エネの高嶋克也取締役専務執行役員がそれぞれ務めた。

満尾会長

本郷社長

3年ぶりの開催となった懇親会

国産バイオディーゼル「コスモCF-5」

コスモ石油マーケティング 供給・販売を開始

コスモ石油マーケティングは1月中旬から、近畿エリアでの石油製品輸送を担当する専属契約タンクローリーなどの走行用燃料を温室効果ガス（GHG）削減効果のある再生可能資源由来の燃料に全面的に切り替えた。

この燃料は、レボインターナショナル社が国内の廃食用油を自社調達し製造・加工。コスモ石油が精製・製造したコスモ軽油に、レボインターナショナル社が長年のノウハウと独自技術で安定した品質の確保と供給実績を積み重ねている「C-FUEL（※参照）」を5%混合したもの。

従来の軽油と比べてCO_2排出量を削減できると同時に、揮発油（ガソリン）等の品質の確保等に関する法律（品確法）における軽油の強制規格もクリア。レボインターナショナル社のみならずコスモも一体となって顧客向けに品質を保証することで、新商品「コスモCF-5」として供給を開始した。

まずは、コスモ石油堺製油所から近畿エリアへの石油製品輸送を担当するタンクローリー約50台と、堺製油所構内の作業車両などにおいて継続的に使用することでCO_2の削減に取り組む（CO_2削減効果は年間約159t）。今後は脱炭素化に向けての経営課題を抱える運輸業界などの顧客に対する販売も検討。将来的にはCO_2排出削減価値を付加した燃料販売スキームの構築も模索していく。

同事業は、コスモの販売や物流といった機能・ネットワークと、レボインターナショナル社のノウハウや独自技術・原料調達ネットワークを組み合わせることで、国産バイオ燃料普及による将来の循環型脱炭素社会の実現に貢献することを目指す取り組み。

※使用済み食用油から100%リサイクルされたバイオディーゼル燃料。植物油にメタノールを加え化学反応（エステル交換反応）によってグリセリンを取り除いて精製した軽油代替燃料。

自家消費走行用燃料として新たに「コスモCF-5」を導入した専属契約タンクローリー（撮影＝コスモ石油堺製油所）

第41回「JCCP国際シンポ」

オープニングであいさつをする鈴木理事長

激変する国際経済

石油・ガス産業の戦略と挑戦

JCCP国際石油・ガス・持続可能エネルギー協力機関は26日、第41回JCCP国際シンポジウム「激変する国際経済における石油・ガス産業の戦略と挑戦～エネルギーの安定供給とグリーントランスフォーメーション～」を、ハイブリッド（会場＝オークラ東京、ライブ配信＝Zoom）で開催。合計13カ国から19人の政府、石油・ガス産業のリーダーがスピーチやパネリストとして登壇。また各国の政府機関や大使館、大学、企業、団体（DX）の推進、ダから多数の参加があった。

オープニングであいさつした鈴木康公理事長（コスモ石油社長）は、コロナ禍やロシアのウクライナ侵攻による戦略と挑戦は引き続き、重要となっているとした。

また、必要かつ多様なエネルギーを確保して価格の不安定性を減らし、優先度の高い技術革新を実現し、適切な政策の便宜を図り、企業・産業の変革を行い、持続可能な社会の実現に挑戦していくためには、新しい国際協力を通じて、知恵を持ち寄り進めていくことが大切であると強調した。

来賓あいさつで若月一泰・資源エネルギー庁資源・燃料部政策課長は、多くの国々がカーボンニュートラルを表明し、その実現に向けては国境を越えて国際社会全体で共に力を尽くしていくことが重要になるとした。

また、エネルギーを取り巻く環境が改善し、カーボンニュートラルと経済成長の両立が進むためには、これまで以上に日本と産油・産ガス国、石油・ガス業界をはじめとした、さまざまな分野の人々が連携していくことが必要。

2021年5月に表明した「アジア・エネルギー・トランジション・イニシアティブ（AETI）」や、22年1月に発表した「アジア・ゼロエミッション共同体（AZEC）」構想についても触れた上で、現実的なエネルギートランジションを実現するために、引き続き関係各国との協力を進めていくと述べた。

各リーダーズパネルでは、中東、アジア、アメリカなどの産油・産ガス国、石油産業の登壇者による発表後に、パネルディスカッションで活発な意見交換が行われた。

ENEOS出資 米国の太陽光発電事業

Cutlassソーラーが商業運転開始

ENEOSが芙蓉リースなどと共同で出資参画した、米国テキサス州での太陽光発電事業Cutlassソーラーが24日、商業運転を開始した。

発電容量は140MWの大型。米国におけるENEOS初の太陽光発電事業だ。発電した電力はERCOT（同州の系統・市場運営機関）を通じて販売する。

ENEOSは「低炭素・循環型社会への貢献」を掲げる2040年長期ビジョンの実現に向けて、発電事業を海外でも積極的に推進している。

テキサス州のCutlassソーラー

スチレンモノマー製造事業を終了

太陽石油・山口事業所

太陽石油は先頃、同社山口事業所におけるスチレンモノマーの製造事業を終了すると発表した。

同社は三井化学からスチレンモノマーの製造事業を譲り受け、2004年1月に山口事業所を開設。以来設備の拡充と合理化を進めながら国内外の需要に応えてきた。

一方、世界的にカーボンニュートラルへの取り組みが急進展し、サステナブルな事業体制構築の重要性が高まると同時に、中国を中心として製造プラントの新増設が相次ぐなど、今後のスチレンモノマー市場は不透明な状況となっている。

このような事業環境を踏まえ、同社は最適な事業体制の構築についてあらゆる角度から検討。山口事業所の土地・設備をはじめとする経営資源を、新しい事業で活用できる可能性を踏まえ、既存のスチレンモノマー製造事業を終了し、事業転換を図ることが最善と判断した。

なお事業終了の具体的な時期などに関しては、今後適宜判断するとしている。

同社では「今後の同事業所の活用については、当社および地域における新たな価値創造に資するあらゆる事業の選択肢を検討していく。また同事業所に勤務するすべての従業員について雇用を継続する」としている。

［山口事業所概要］
▽所在地＝山口県宇部市大字西沖ノ山字西沖13-3▽操業開始＝1994年4月▽所長＝公文英雄執行役員▽従業員＝60人▽敷地面積＝29万8000㎡▽製造設備＝エチルベンゼン製造装置（39万7000t／年）、スチレンモノマー製造設備（37万t／年）

JOGMEC、2月6～17日

地熱井掘削監督者養成講座を開催

エネルギー・金属鉱物資源機構（JOGMEC）は2月6日～17日の期間、わが国の地熱開発事業者の中において、掘削現場を管理する監督者の養成に寄与することを目的に、令和4年度「地熱井掘削監督者養成講座」を開催する。

なお、今年度は事前に講師が説明した講座を録画し、インターネットを介して12日間視聴可能とする方法で行う。

［プログラム］
①掘削用語講座（角田義彦INPEXドリリング削井部次長）②掘削技術概論（菅野俊エスケイエンジニアリング取締役）③地熱井の特徴とトラブル対策（阿部剛ベッツ代表取締役）④掘削データとトラブル予測（藤貫秀宣日鉄鉱コンサルタント常務執行役員・全国ボーリング技術協会会長）⑤ケーシングセット手法とそのセメンチングデザイン（遠藤聡ハリバートン・オーバーシィーズ・リミテッド日本支社代表）⑥地熱井掘削における安全管理（都築雅年＝JOGMEC地熱技術部技術課）

サイン ボール

卯年で初詣客が激増

▽…宇治神社（京都府宇治市）の祭神は応神天皇の皇子の菟道稚郎子命（うじのわきいらつこのみこと）で学業成就・受験試験合格の神。皇子が河内国（大阪府東部）から宇治に向かう途中で道に迷った時、ウサギが現れて皇子を先導し道案内をした故事により、正しい道へと導く「神使のみかえり兎」が崇められ、境内の手水舎にはウサギが鎮座している。

▽…ことしは卯年ということで初詣客が激増。同神社の巫女は「数えたわけではないが、例年の4倍～5倍になっている。特に三が日はすさまじかった」と振り返る。

▽…11日に大阪市内で行われたマルヰ会近畿ブロック3地区会、近畿地区イワタニ会の賀詞交歓会に出席した間島寛岩谷産業社長は「『卯』には春の訪れや世の中を明るくするという意味が込められている。これまでの努力が花開き、なお一層飛躍する年にしたい」と意気込みを示した。（凡蔵屋敷）

朝、通学バスを待つ人がいる。
10キロ先の学校へ歩きだす人がいる。

ネオンの輝く街で恋人を待つ人がいる。
ロウソクの灯りでラブレターを
したためる人がいる。

もしもエネルギーに顔があるなら、
すべての一人に、
微笑みかけているだろうか。

もしもエネルギーに顔があるなら、
私たちはその顔でありたい。

人と人がつながるエネルギー。
idemitsu 出光興産株式会社